

雑誌「婦人画報」にみる口元へのこだわり

Caring about Lips in“Fujin-Gaho”

玉置育子¹⁾、横川公子²⁾、池田仁美³⁾

Yasuko TAMAKI, Kimiko YOKOGAWA, Hitomi IKEDA

E-mail : tamaki.yasuko@osaka-shoin.ac.jp

和文要旨

雑誌「婦人画報」の美容相談コーナーの中から口元に関する相談を取り上げた。本論において、口元を取り上げた理由は、従来の研究で、化顔の各パーツ、目、鼻、眉毛などへの悩みと、その解決方法の美容法について研究を行ってきたからである。

口元に関する主たる悩みは歯、息、唇、などであった。歯に関する悩みは歯が黒いこと、息に関する悩みは息が臭いこと、唇に関する悩みは唇が分厚いことであった。

その相談を担っていたのが美容家の藤波芙蓉であった。藤波芙蓉の美容法の特徴の一つとして、あらゆる相談に過酸化水素水の使用を進めていた。藤波のもう一つの美容法の一つが自ら提案した化粧品の斡旋である。例えば、唇が分厚い悩みには縮唇ボマードの使用を斡旋していた。それらの化粧品は出版社の代理部で購入が可能であった。様々な相談への対応、数ある化粧品の使用方法、化粧品や肌に関する知識、様々な相談に対してそれに見合った化粧品の開発などを行うその藤波芙蓉の姿は“美のコンシェルジュ”ともいうことができる。

キーワード : 美容相談、藤波芙蓉、美容家、口元

Keywords : Beauty consultation, Beautician, Fujinami Fuyo, mouth area

1. はじめに

大正時代から昭和にかけて当時の女性達は口元をどのように意識していたのだろうか。この疑問を晴らすべく、明治38年に創刊された雑誌「婦人画報」を主たる資料として当時の女性の意識を追うこととする(図1)。雑誌「婦人画報」を取り上げる理由は、この時期に出版された婦人雑誌を資料として扱う場合、最大出版数をほころ為無視できないこと。また、今まで遂行してきた研究では、主たる資料として使用してきた雑誌「婦人世界」「主婦の友」と同様に美容相談コーナーが連載されていることをふまえているからである。本論では、雑誌「婦人画報」の中でも読者から寄せられた悩みに対して美容家が回答を行なう大正2年4月から昭和8年4月まで連載された美容相談コーナー「化粧問答」、「お化粧問答」を主たる資料とし、口元へのこだわりを探ると同時に、

美容家の回答の中に美容家自身の思想がどのように反映されているのかも併せて探ることとする。



図1. 明治38年に創刊された雑誌「婦人画報」の表紙

¹⁾ 大阪樟蔭女子大学学芸学部被服学科化粧品学専攻講師

²⁾ 武庫川女子大学教授、同生活美学研究所兼務

³⁾ 武庫川女子大学大学院生活環境専攻博士後期課程在学中